

各ラウンドの展開例とは（中学校1年生の例）



【主な活動】
ピクチャー
オーダリング
【時数】
1.5時間～2時間

解説動画



リスニングを通じユニットの本文の概要をつかむ。

活 動	回 数	具体例
1 パーソナライズ		・ 教員とのやり取りなどを通じユニットのトピックを理解、自分自身の生活、体験と結び付け
2 内容 Q & A	1 ～ 2 回	・ 教科書のユニット全体の概要に関する Q & A
3 ピクチャー オーダリング	5 ～ 6 回	・ 黒板に順不同に掲示されているピクチャーカードを話の流れに沿った順番に並び替え ・ 内容について教員とのやり取りを通じて確認
4 なりきり リスニング	1 ～ 2 回	・ 登場人物の気持ちを考えながら自分の選んだ登場人物になりきってリスニング
5 なりきり スピーキング	1 ～ 2 回	・ 自分の選んだ一人の登場人物になりきって 1 か所でも同じタイミングで発話

ポイント 何度も音声聞き話の概要をつかんでいきますが、様々な活動は聞くための仕掛けになります。例えば、ピクチャーオーダリングは、確認段階で同じ箇所に異なるピクチャーが並ぶことも多々ありますが、だからこそもう一度聞く意味が生まれます。なりきりスピーキングは、シャドーイングができることが目的ではなく（うまくできたら素晴らしいですが）一緒に言うために注意して聞く、など単に「聞きましょう」ではない仕掛けが大切です。

本文の音声情報を文と結び付ける活動を行う。

活 動	回 数	具体例
1 ストーリーの 振り返り		・ 教員とのやり取りを通じ、そのユニットの概要、流れを振り返り
2 音作り	1 ～ 2 回	・ ランダムに並んだストーリーの文を見て、音の確認
3 センテンス オーダリング	5 ～ 6 回	・ 音声を聞きながら、ランダムに並んだ文に順番に沿い番号を記入。複数回聞いた後に確認
4 確認	1 ～ 2 回	・ 教科書の本文を見ながらリスニングをし、音情報と文字情報を確認

ポイント 音、文字の一致は難しいものです。活動は音情報と文字情報の一致ですが、その活動を踏まえ何度も本文を聞くことが意図するところになります。活動の際のリスニングは途中で止めることなく、一貫性のあるストーリーを最初から最後まで流します。多くの場合、生徒は聞き終えた後、教員からの“Do you want to listen to the story one more time?”の問いに勢いよく“Yes!”と答えてくる様子が見受けられます。

評価はどうする？

ラウンドだからといって特別なことはありません。学習評価は学校の授業を通じてどのような力がついたかを評価するものなので、授業を通じてついた力を見ることが大切です。→先生方の疑問にお答えします（Q1）【p.18】



【主な活動】
音読、ライティング
[書き写し]。
【時数】
2時間

解説動画



ラウンド1、2の活動を経て、音読に取り組む。

活 動	回 数	具体例
1 ストーリーの 振り返り		・ 教員とのピクチャーカードなどを用いたやり取りを通じ、そのユニットの概要、流れの振り返り
2 リスニング	1 ～ 2 回	・ 教科書の本文を見ながらリスニングをし、音情報と文字情報を確認
3 新出語彙の確認	5 ～ 6 回	・ ユニットで出てくる新出語彙を全体で発音し、リストを使用して個人、ペアなどで更に確認
4 コーラル リーディング	1 ～ 2 回	・ 教員の後に続いて音読
5 バズリーディング	1 ～ 2 回	・ 個人のペースで音読
6 一斉読み	1 ～ 2 回	・ 全員で音読
7 リスニング	1 ～ 2 回	・ 教科書の本文を見ながらリスニングをし、音の確認
8 オーバーラッピ ング	1 ～ 2 回	・ 音声と共に音読
9 オーバーラッピ ングマックス	1 ～ 2 回	・ リピート用音声を用いて音読
10 バズリーディング	2 ～ 3 回	・ 個人のペースで音読
11 一斉読み	1 ～ 2 回	・ 全員で音読
12 ライティング		・ 音声化できた教科書のストーリーを書き写す

ポイント 様々な読み方を取り入れ何度も音読に取り組めるようにしていきます。音読の合間には内容に関するQ & Aなどで、単なる音の再生にならぬよう、生徒が内容を意識したり、深めたりすることができるようにしていきます。一人一人の音読の状況把握し、デジタル教科書を活用するなど適切にサポートをしていくことが大切です。

教科書本文に空欄の設けられたシートを用い、表現、語彙を考えながら音読をする。

活 動	回 数	具体例
1 ストーリーの 振り返り		・ 教員とのピクチャーカードなどを用いたやり取りを通じ、そのユニットの概要、流れの振り返り
2 一斉読み	1 ～ 2 回	・ ラウンド3を踏まえ、教科書を音読
3 穴あき音読	8 ～ 10 回	・ 穴あきシートを用いてペアで音読（一人がシートを使い、一人が教科書で確認をしながら相手の音読を聞く。必要に応じてサポートなど）
4 ライティング	1 ～ 2 回	・ 穴あきシートを見て、空欄を補充しながらノートに本文を書く

ポイント 空欄の語彙や表現を考えながら音読に取り組みますが、完璧に言えることを求めているわけではありません。うまく言えなければ、教科書に戻り音読を行ったり、確認をしたりした後にまた取り組む、などインプットの上塗り意識していきます。



【主な活動】
穴あき音読
【時数】
2～2.5時間

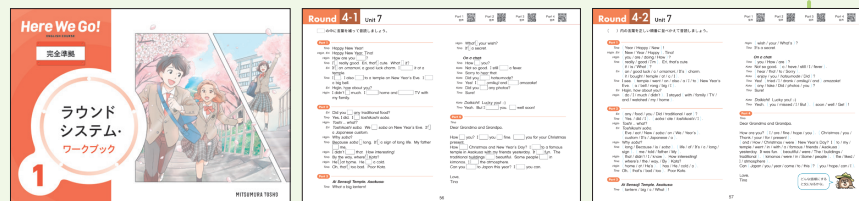
解説動画



ラウンド 4 で使用するワークシートの例

『ラウンドシステム・ワークブック 1』
(光村図書) p.56-57

▶『ラウンドシステム・ワークブック』のサンプルはこちらからご覧ください。



何度も触れたストーリーを自分の言葉で伝え合う。

活動	回数	具体例
1 ストーリーの振り返り		・教員とのピクチャーカードなどを用いたやり取りを通じ、その単元の話の概要、流れの振り返り
2 音読もしくは穴あき音読	1～2回	・教科書の本文を音読
3 ストーリーを考える		・ピクチャーカードを見ながら、どのように伝えるか考える
4 リテリング	3～5回	・ペア、グループなど相手を変えながら、振り返りを挟みリテリング
5 ALT によるリテリング	1～2回	・ALT のモデルを聞いたり、読んだりし、より言い表すのに適切な語彙や表現をつかむ
6 ストーリーを考える		・ピクチャーカードを見ながら、どのように伝えるか考える。
7 リテリング	3～5回	・ペア、グループなど相手を変えながら、振り返りを挟みリテリング
8 ライティング		・自分の伝えたストーリーをノートに書く

ポイント 生徒と確認をするのは、“○○ says ～ (本文の表現そのまま).”は使用しない、ということです。それ以外はそれぞれの生徒が繰り返しを通じ培ってきたもので自由に表現していきます。生徒の表現を注意深くモニターし、全体での共有につなげるなどしていきます。

途中で生徒が言いたいだろう表現を組み入れたALTのリテリングを聞く、もしくは読む機会を設定するなどし、伝えたいことに近づけていきます。

文法指導のタイミングは？

生徒が繰り返し英語を使う中で、様子を見ながら短い確認、整理を状況に応じて行っていくことが大切です。文法指導を行うタイミングは、特に1年生はラウンド3以降(文字が出てくるタイミング)が良いでしょう。

→先生方の疑問にお答えします(Q2)【p.18】

様々なラウンドシステムのかたち

英語を楽しく学ぶ

ー特別支援学級でのラウンドシステムー

本校では特別支援学級で「ラウンドシステム」を取り入れた授業を進めています。従来の授業の進め方では、時間を要することが多く、せっかく生徒の意欲がかき立てられて楽しむことができる教科書内容となっているのに、年度の後半では十分に落とし込むことができていないと感じたことがありました。そこで、教科書内容を満遍なく扱うことのできる「ラウンドシステム」で授業を進めることを決めました。授業進度はやはり時間を要することが多いので、ラウンド3を終えるまでを指導計画として設定しています(進度によりラウンド4も)。インプットを繰り返すことで、少しずつ教科書の内容を捉えることができたり、音と文字が一致してくることで英語を読めることに喜びを感じたり、キャラクターの性格を分析してみたり、少しずつではありますが興味を持って楽しんで「英語」に触れることができるようになっていきます。

「ラウンドシステム」による授業改善で生徒の姿がこんなに変わった！

「英語で自分の思いを伝え合う力を身につける」。これは、多くの先生が理想としていらっしゃると思います。私も努力し、継続して取り組んではきましたが、思い描いていたものとはほど遠いものでした。『Here We Go!』を使い始めてから「実技試験」としてStory-Retellingを取り入れました。未知の世界でした。練習と発表を繰り返すうちに、内容をより豊かにしようと、生徒の学習態度が変わっていききました。教科書の内容を生徒と教師とで英語で確認することで、生徒の表現は広がっていききました。現在では、Story-Retellingで使う表現をより正確に身につけ、教科書の内容をより深く読み取ろうと、音読活動だけではなく対話活動への意欲も高くなり、熱心に活動しています。一生懸命に活動する生徒の姿を見るたびに、授業改善し続ける勇気が湧いてきます。次は何をしたら、もっと生徒の英語力が高まるのか、英語好きな生徒を増やすには何をしたらいいのか。試行錯誤の毎日ですが、悩むことがとても楽しいです。

市川三郷町立六郷中学校
こばやしゅうひ
小林雄飛



川崎市立有馬中学校
つちやまさのり
土屋雅徳



小林先生の
年間指導計画はこちら



※詳しい年間指導計画は
QRコードから
ご覧いただけます。

土屋先生の
年間指導計画はこちら



ラウンドシステムの
授業内容はこちら

